

リフレクションカード 2019年度後期

学科	助産別科
氏名	田中 満由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
助産学研究演習	1	通年	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>限られた時間で、研究の基礎について理解してもらうために前半を研究の概説をし、後半を担当教員を決め、担当教員のもと、興味あることからテーマを決め、テーマに沿って研究計画書を完成するという構成にした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>担当教員のもと、グループで課題を決定し計画書を作成するにわたり、そのプロセスで教員とのやり取りや学生間でのやり取りで、確実に研究能力が向上していった。構想発表会では、自らの学びをもとに積極的に質問したり、クリティックできていた。短時間ではあるが、研究の基礎を身に着けることができた判断した。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>  
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

内容的妥当性あり。到達度の自己評価は3.8~4.3で、「事象を理解する視点や考え方を得る」「自分が学ぼうとしている専門分野の課題を検討する力を得ることができる」については平均4.3である。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>  
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」  
「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価は全項目の平均が3.6~4.1であった。学生の満足度は高かった。科目の性質上、積極的に図書館・インターネット・新聞等を利用し、しらべていた。学習量も多く、多くの学生が予習・復習に時間をさいていた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

総括評価としては実施方法は学習効果が上がり、学生の研究能力の基礎も身につき、良い方法であったと考える。それぞれの担当教員が指導で多くの時間を割かれるため、バランスを考える必要がある。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	助産別科
氏名	田中 満由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教と生命倫理	1	通年	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本学の教育基盤となるキリスト教精神に基づく人間観や世界観について概説する。また、生命科学と医療技術の急速な進歩により生命が人の手によって操作される現代、様々な倫理的課題が浮上している。胎児の権利の擁護、生殖補助医療、代理出産、人工妊娠中絶、出生前診断、に関連した生命倫理に対する課題について説明するとともに学生間で討論を実施し、他者との価値観の相違も踏まえ、生命倫理に対して自己の意見を述べるができるようにする。生命倫理に関する倫理的見地から見た助産師が理解でき、活用できるようにする。本科目の一部は受胎調節実施指導員の資格を取るための読み替え授業の位置づけであり、そのことを念頭に入れて県への申請書に沿った授業を展開した。</p> <p>次年度も受胎調節実施指導員の資格を取るための読み替え授業の位置づけであることから、この形式で実施する予定である。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	成績は優秀で、討論とレポートの内容から教育の目的は十分達成できた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

達成度自己評価は自分なりの目標評価と職業選択の参考になったかの項目が平均3.6で、その他の項目は3.7~4.0であった。授業の質評価は全項目平均3.8~3.9である。生命倫理と助産師の役割については就職後も継続して考えていくことであり、現段階ではこの得点で良いと考える。職業選択については最初から助産師になるつもりで入学しているので、点数として低いのは問題ないとする。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」 学生の意見など

授業の進め方は本年度の方法で学習効果が上がったので、基本的にはこの方法を継続して実施する予定である。学習の方向性については本年度、自分たちで調べ、討論するという時間を作ったことで、学習効果は高まったと判断する。図書館やインターネット、学術データベースの利用が2/3の学生はできていたが、残りの学生は利用しないと回答していたことから、すべての学生が積極的に図書館やインターネット、学術データベースの利用をして発表や討論に臨むようにしたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

達成状況として目的は達成でき、学習効果も上がったので、授業の進め方は基本的にはこの方法を継続して実施する予定である。図書館やインターネット、学術データベースの利用が2/3の学生はできていたが、残りの学生は利用しないと回答していたことから、すべての学生が積極的に図書館やインターネット、学術データベースの利用をして発表や討論に臨むようにしたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	助産別科
氏名	古賀 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学IV(新生児・乳幼児)	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は他の助産診断・ケア学同様、臨地実習を前に短期間で集中して開講される。そのため、予め看護基礎教育（特に母性看護学）における知識や技術の見直しが必要であることから開講前に母性看護の知識や技術の復習として新生児期の身体面や発達発育面について事前学習として課題を提示し、知識の振り返りを行ったうえで講義に臨むよう準備した。講義内容については、褥婦や新生児をイメージしたうえで母子一体の看護の根拠や方法を理解することを意図して、身体的特徴や生理についての理解を視覚的に深めることを目的にDVD教材の活用、模型を使用した技術演習を取り入れた。さらに、グループで新生児の特徴的な生理機能についてまとめ、それぞれがまとめた内容を発表し、意見交換を行うことで知識や思考が深まるよう工夫した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された		達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は80点であった。再試験対象者は0名であった。ほぼ全員が理想的レベルに達した。</p> <p>目標別にみると、知識理解71%、思考判断80%、態度100%、技能表現100%であり、すべて標準レベルを上回っていた。</p> <p>学生アンケートから、目標の達成や的確な判断力を身につけたと実感できており、予習復習の時間も半数以上が確保できていた。このことから他の科目の課題が重なっていたものの、看護基礎教育の臨床実習で経験しており、妊娠期や分娩期に比べると知識理解力や思考判断力はある程度身につけていたため自己の課題が明確であり、本科目で得られた知識を更に深めるための時間を効果的に利用できていたのではないと思われる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など</p>	<p>本科目は「助産の実践領域」のなかの「専門科目」であるが、より専門的で高度な知識と技術を身につけることが必要とされることから、知識理解・思考判断のほか技術表現・態度も含めた講義内容は必要である。受講動機は「必須科目である」100%、ほぼ全員がまじめに講義や演習に意欲的に取り組んでおり、到達度自己評価では全員が目標や課題や判断する「そうだと思う」と回答していた。また、DPすべてにおいても標準レベルに達していたことから、内容的には妥当であったと考える。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」 「図書館, インターネット利用」 学生の意見など</p>	<p>短期間で集中的に行われる講義であり、学生が関心を持って意欲的に目標に向かって取り組めるよう、他科目との課題の調整や科目間の関連性を考慮して講義を進めてきた。学生のアンケートからも、半数以上の学生が予習や復習を行っており、効果的に内容であったと考える。</p> <p>今後も、学生個々の理解度を踏まえ、実習時期や講義内容も考慮して学生にできるだけ負担なく効果的な講義を提供できるよう検討していく必要があると考える。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>到達度自己評価では、すべての項目において全員が「そうだと思う」と回答している。さらに、学生全員が目標に達することができていた。短期間で集中的に行われる講義であったが、学生全員が課題に取り組み知識理解力が定着し広い視野で思考判断が可能となるように、更なる工夫をしていきたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度後期

学科	助産別科
氏名	古賀 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学VI(健康教育演習)	1	通年	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、助産師として身につけておかなければならない健康教育の技術を学ぶ。予め、周産期における母児の生理機能だけではなく、健康逸脱予防についての知識や健康教育を行ううえで必要なコミュニケーション能力も必要とされる。そのため、助産診断・ケア学において周産期の母児に関する知識をふまえた上で開講するよう、講義の進行を工夫した。さらに、助産学基礎実習に必要な妊娠期・産褥期における母児の健康教育に関しては、前期において計画的に行った。また、より丁寧な指導を意識し、担当教員を決め、少人数を受け持ち、学生個々のペースを配慮した指導を心がけた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は81点であった。再試験対象者は0名であった。ほぼ全員が理想的レベルに達した。</p> <p>目標別にみると、知識理解80%、思考判断91%、興味関心80%、態度100%、技能表現67%であり、すべて標準レベルを上回っていた。</p> <p>学生アンケートから、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」、「課題を検討する力・的確に判断する力を得ることができた」、「学びを深めたいと意欲を持つことができた」と自己評価していた。また、予習復習の時間もほぼ全員が確保できていた。これらのことから他の科目の課題が重なっていたものの、自己の課題や本科目で得られた知識を臨床において対象者に提供するという目標が明確であったことが学習のモチベーションを上げる原動力となり、目標達成につながったと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は「助産の実践領域」のなかの「専門科目」であるが、より専門的で高度な知識と技術を身につけることが必要とされることから、知識理解・思考判断のほか技術表現・態度も含めた講義内容は必要である。受講動機は「必須科目である」100%、ほぼ全員がまじめに講義や演習に意欲的に取り組んでおり、到達度自己評価では全員が目標や課題や判断する「そうだと思う」と回答していた。また、DPすべてにおいても標準レベルに達していたことから、内容的には妥当であったと考える。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生がある程度の関心を持って意欲的に目標に向かって取り組めるよう、科目間の関連性や講義の順序を考慮して講義を進めてきた。学生のアンケートからも、ほぼ全員の学生が予習や復習を行っており、効果的な内容であったと考える。また、到達度自己評価も全員ほぼ全員が「そうだと思う」と回答しており、少人数を教員が担当し、個々のペースを配慮した指導を心がけたことも要因であると考えられる。今後も、学生個々の理解度を踏まえ、実習時期や講義内容も考慮して学生にできるだけ負担なく効果的な講義を提供できるよう検討していく必要があると考える。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>到達度自己評価では、すべての項目において全員が「そうだと思う」と回答している。さらに、学生全員が目標に達することができていた。今後も、学生のペースを配慮した指導を心がけ、学生全員が知識や思考判断を伴った健康教育技術を修得できるよう、更なる工夫をしていきたい。</p>
-------------------------------	--



リフレクションカード 2019年度後期

学科	助産別科
氏名	田中 満由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅶ(助産過程演習)	1	通年	必修	はい	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>必修であるため、全員受講している。助産診断過程についての講義は田中が担当し、事例を通して各期(妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期)は学生各人に対して教員の担当を決め、マンツーマンで助産過程の指導を実施し、各期毎に学生の代表者に発表させ、共通認識ながら演習を進めて行った。学生はマンツーマンの指導や他人の発表を聞くことで助産過程をより理解することができた。この科目は到達度自己評価の全項目が平均 3.6~3.9であった。この科目は助産診断をするにあたって各科目の知識がすべて必要で、助産過程の演習時にはまだ、知識が浅く、知識が助産診断に直ぐ結びつかないで、自己評価の点数が低いのは、仕方ないと判断している。</p> <p>実習で助産過程を展開する際、この科目での習得した技術により、助産診断・助産過程が全員出来ていた。また、実習において、分娩介助1例目より、分娩介助10例目では助産診断・助産過程の展開がスムーズに行えらるようになっており、助産診断・助産過程の基本はこの科目でできていたと判断する。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生の授業評価アンケートの結果など, できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」, 「学習到達度の自己評価」, 「学習量の評価」, 「学修のための情報利用」, 「図書館, インターネット利用」, 自由記述の意見など</p>	<p>各期の事例の展開を担当教員の指導のもと、実施することで、的確な情報収集、アセスメント、診断、計画ができるようになった。また、実習において、受け持ち事例が、助産診断、助産過程がともに展開できたことをもって達成できたと判断した。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>  
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

内容的に妥当である。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>  
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」  
「図書館、インターネット利用」学生の意見など

カリキュラムの性質上、実習前に関連講義を全て済ませておく必要があり、授業が詰め詰めで、学生は課題に追まられる状況が続いているが、中でも課題提出の期限を守り、しっかり課題を実施していた。妊娠期、産褥・新生児期、分娩期でそれぞれの期で、アセスメント・診断・計画を展開するが、各期の展開をこなすのに学生にとって時間的に負担が多いので、コマとコマの間隔を課題に沿って配慮するように検討したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

助産診断過程についての講義は田中が担当し、事例を通して各期(妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期)は学生各人に対して教員の担当を決め、マンツーマンで助産過程の指導を実施し、各期毎に学生の代表者に発表させ、共通認識しながら演習を進めて行った。学生はマンツーマンの指導や他人の発表を聞くことで助産過程をより理解することができた。  
実習で助産過程を展開する際、この科目での習得した技術により、助産診断・助産過程が全員出来ていた。  
効果的であったため、次年度のこの形式で実施する予定である。各期の課題提出において、限られた時間の中で、いかに学生の負担を軽減し、目的を達成するか検討する予定である。出身教育課程の違いにより、学生のレディネスに差があるため、担当教員を決める際、十分配慮して担当を決め、指導することが必要である。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	助産別科
氏名	古賀 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
女性の健康支援論	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目では、女性のライフサイクル各期における健康問題とその支援について学び、女性の支援者としての助産師の役割を学ぶことを目的としている。、周産期・乳幼児期・学童期を除くすべての女性に対する助産師として役割を考える機会となることを意図し、専門科目ではあるが学期の初めに講義を組んだ。ライフサイクルにおける特徴と支援について講義をすすめ、ディスカッションの時間を設けた。そのため、評価についてもディスカッションやレポートを重視することにした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は71点であり、再試対象者は0名であった。全員が標準レベルに達した。さらに、10名が理想的レベルに達していた。</p> <p>DP別にみると、知識理解に関しては71%、関心意欲に関しては73%であった。</p> <p>ほぼ全員の学生が、予習復習に時間をとり、学習にとりこんでいたと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は「助産の実践領域」のなかの「専門科目」であり、健やかな女性のライフサイクル支援を主とする科目の一つである。ライフサイクル各期の女性に関する知識理解はもちろん思考判断をふまえたうえで、関心を持って自らの意見をまとめ他者に発信し、より具体的な助産師の役割を見出していくためには必須である。受講動機は「必須科目である」「資格取得科目である」という理由から、まじめに講義や演習に意欲的に取り組んでいたとおもわれ、目標到達もしており、内容的には妥当であったと考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>周期を学ぶうえで、ライフサイクルにおける女性の特徴や看護を理解することは重要であることから講義の時期や内容は適切であったと考える。 今後は、より社会的な問題や話題に目を向け、助産師としての視野を広げるためにも、調べ学習や意見交換などの機会をもうけ、アウトプットできる機会を増やすことで、お互いの学びを深められるような講義計画もとりたい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>アンケートの結果からは、到達度自己評価では、すべての項目においてほぼ全員が「そうだと思う」と回答しており、目標に達することができていた。短期間で集中的に行われる講義であるが、今後も、より社会的な問題や話題に目を向け、助産師としての視野を広げられるような講義内容を検討していきたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2019年度後期

学科	助産別科
氏名	田中 満由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
助産管理学	1	通年	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>病院・助産所における助産管理に必要な基本的知識を身に着けるため、助産管理の基本的概念と管理のプロセス、業務管理、助産業務に関連する概念や関連法規、周産期管理システム、周産期におけるリスクマネジメント、災害時の看護ケアなどについて臨床経験を活かし、事例を示しながら、国家試験も念頭に授業を展開した。資料は特に覚えなければならないことはカラーを使用するなどの工夫をして作成した。必修であり、国試受験に必要な科目のため、別科全員が履修している。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>到達度の自己評価は全項目3.8～4.1であった。「専門分野について学びを深めたいと思った」は4.1であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など

内容妥当性あり。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」  
「図書館, インターネット利用」 学生の意見など

予習・復習は2〜3回が最も多く、図書館・インターネットの利用が2/3強であったが、カリキュラム自体が詰め詰めなので、これ以上の要求はむづかしいかもしれない。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

教育目標は達成できた。成績もよく、国試問題・国試模試の解答合わせについても全員よく正答出来ていた。次年度も同様の方法で実施する。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	助産別科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
地域母子保健	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本講義は助産師として、助産師として地域で母子保健を推進するうえで必要な母子保健行政の仕組みや制度、社会資源、保健医療福祉関係職種との連携等について、最近の動向を踏まえ、グローバル社会における今後の活動を展望する講義内容として計画している。本科目の意義を理解し、地域母子保健における意欲関心を深めていくことが必要である。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		やや達成された		達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は、80.9 (82.1) 点であり、再試対象者はいなかった。標準的レベルに達した学生が100 (100) %であり、内、理想的レベルに達した学生は、50.0 (87.5) %であった。</p> <p>目標別にみると、知識理解に関しては81.4 (80) %、意欲関心に関しては75.0 (84) %、態度に関して100.0 (100) %であった。前年度（）内数値で見られるように、成績平均値は昨年より下がったが、知識理解は上がり、意欲関心・態度は昨年度よりわずかに下がっている。助産師としての地域母子保健を推進するうえでの意義については、全員の学生が十分理解し、授業にも関心をもって参加する状況をさらに改善していきたい。</p> <p>学生の到達度自己評価においては、全項目において平均値が3.9～4.0 (3.7～4.0) となっており、前年度より改善している。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>DP・CPカリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性</p> <p>本科目は、知識理解、意欲関心、態度に位置付けられた科目である。知識理解に関しては8割、意欲関心に関しては8割、態度に関しては10割の学生が達成していることから内容的には妥当であると考え。しかし、意欲関心に関してが他項目から少し低い状況がみられたため、今年度は地域母子保健の内容が母子保健行政や仕組みの理解だけに終わることがないよう、今後の課題及び展望を含めて、学生の意欲関心を高めることに努めた結果、昨年度より意欲関心、態度が向上した。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学習量の評価において、予習復習の時間が半数の学生の取り組みとなっている。本講義は3人の教員による展開となっているため、教員間における授業展開についても情報交換を綿密に実施し、授業課題の提供について、学生の学習行動につながる展開を検討したいと考える。</p> <p>授業の質評価においては、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」「説明は理解しやすいものであった」「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに応える機会が作られていた」のいずれの項目においてもそうではないと思う等の否定的意見はみられなかった。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目の達成状況については、授業成績および授業評価アンケートより計画している状況は概ね達成できていると評価できる。</p> <p>さらに、授業内容を精選に加え、学生の授業参加への仕組みを検討し、小人数の講義であるため受講学生全員の達成状況が理想的レベルに達するよう検討を加えていきたい。</p>
-------------------------------	--



リフレクションカード 2019年度後期

学科	助産別科
氏名	田中 満由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
子育て支援論	1	前期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>講義は子育て支援全般(子育て支援とは・目的・支援施策の歴史・諸問題と理論・現状・関連3法その他の法律)について概説した。また、母子関係への援助、親子関係、家族関係、親力、子育て力について概説した。一方的に講義するのではなく、積極的に学習できるように母子保健施策として実施されている様々な子育て支援を日本を数ブロックに分け、担当ブロックを調査し、担当ブロックについて発表しデータを共有するとともにそれぞれの自治体の背景にあった子育て支援がなされている特徴を学生が、発見することができた。学生は自分たちの担当県との違いなどについて討論した。</p> <p>効果的であったため、次年度もこの形式で実施する予定である。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された		達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>一方的に講義するのではなく、積極的に学習できるように母子保健施策として実施されている様々な子育て支援を日本を数ブロックに分け、担当ブロックを調査し、担当ブロックについて発表しデータを共有するとともにそれぞれの自治体の背景にあった子育て支援がなされている特徴を学生が、発見することができた。自分たちの担当県との違いなどについて討論した。学生はレポートから多くの学びを得たことが明らかになった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>内容妥当性あり。学習達成度の自己評価は全項目平均3.9~4.1である。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」 「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の進め方については本年度学習効果が上がったため、次年度もこの形式で実施する予定である。学習量については予習、復習をして授業に臨んでいる。図書館・学術データベースの利用が約半数が利用したと回答している。インターネットの検索を3/4の学生が利用していた。これは課題の性質上の特徴であろう。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>達成状況から方法は効果的であったため、次年度もこの形式で実施する予定である。</p>
-------------------------------	---